

INTERNET ARCHIVE Wayback Machine Go 6 3 4 Close
28 captures 29 1 05 - 11 3 10 2008 2010 2011 Help

9月30日

[朝日新聞記者会見に
ついてのコメント](#)

4年前、NHKが放送した番組「ETV2001」に関する朝日新聞社の記事および記者の取材方法について、NHKは1月21日に、朝日新聞社に対し公開質問状を出し、数々の問題点について一つ一つ具体的に回答するよう求めました。

朝日新聞社に送付したものは以下のとおりです。

8月25日

[朝日新聞の社内資料
流出
問題について](#)

平成17年1月21日

朝日新聞社

代表取締役社
長 箱島 信一 様

7月25日

[朝日新聞記事につい
での
総局長会見](#)

編集局長 吉田 慎一 様

NHK放送総局長
関根 昭義

4月20日

[朝日新聞社への
催告書](#)

[朝日新聞報道問題について](#)

御社は1月20日付け回答書においても、記事の事実関係についての間違いを認めず、「取材の積み重ねをもとに報じた根拠あるもの」とか「関係者に取材した結果を正確に報じたもの」と述べるにとどまり、記事の内容を裏付ける具体的な根拠を示さないまま、謝罪と訂正を拒否しました。

1月21日

[朝日新聞社への
公開質問状](#)

1月19日

[関根放送総局長の
記者会見要旨](#)

御社は、1月12日付けの記事で報じた内容について「誤報」であるという指摘を受けたあとは、内容の真偽については一切言及せず、関係者が証言したことを正確に報じたと繰り返すだけで、責任逃れをしようとしていると言わざるを得ません。御社の記者が取材した関係者も御社記事に掲載された証言内容を明確に否定し、さらに御社記者の取材方法を強く批判しています。

1月18日

朝日新聞社への抗議
文

そこで、御社の記事および御社記者の取材方法についての数々の問題点を、公開質問状の形で一つ一つ具体的にお聞きします。

1月14日

朝日新聞社への抗議
文

御社が以下の質問に誠実に答え、説明責任を果たされ、記事を訂正するとともに、記事によって著しく名誉を傷つけられたNHKなど関係者に対して謝罪するよう、重ねて強く要求します。

1月13日

関根放送総局長の見
解

また、回答をする際には記者会見を開いて、「朝日新聞報道問題」についての説明責任を果たされるよう求めます。

公開質問状

1. 記事の真偽について

- (1) 中川氏とNHK幹部が放送前日に面会したのは事実ですか。
- (2) 上記(1)の記事を掲載するにあたって、中川氏及びNHK松尾元放送総局長の「証言」以外に、何らかの裏付けや根拠となる事実確認をしたのですか。
- (3) 中川氏が放送中止を求めたのは事実ですか。
- (4) 上記(3)の記事を掲載するにあたって、中川氏の「証言」以外に、何らかの裏付けや根拠となる事実確認をしたのですか。
- (5) 安倍氏がNHK幹部を呼び出したのは事実ですか。
- (6) 安倍氏がNHK幹部に、番組は偏った内容だなどと指摘したのは事実ですか。
- (7) 上記(5)、(6)の記事を掲載するにあたって、安倍氏及び松尾元放送総局長の「証言」以外に、何らかの裏付けや根拠となる事実確認をしたのですか。

- (8) NHKの番組が政治的圧力を受けて「改変」されたのは事実ですか。
- (9) 上記(8)の記事を掲載するにあたって、内部告発した当時の番組担当者の「証言」以外に、何らかの裏付けや根拠となる事実確認をしたのですか。
- (10) 上記(8)の記事を掲載するにあたって、内部告発した当時の番組担当者の「証言」は伝聞情報にすぎないことを承知していたのですか。
- (11) 御社は記事で「いずれにしても結果的に、憲法が1) 禁じる検閲に近い事態が起きていたことになり、憲法で保障された表現、報道の自由を無視したものだといえる」と断定的に指摘しています。現段階でもそのように考えていますか。

2. 御社記者の取材について

- (1) 松尾元放送総局長は、1月9日昼過ぎに御社記者2) から取材を受けた際に、「安倍・中川両氏からもすでに取材している。全部わかっている」「政治的圧力を感じたでしょう」と執拗に問いただされた、と話しています。一方、御社の記事によると安倍・中川両氏への取材は翌日の10日となっています。御社記者が松尾元放送総局長に嘘をついて取材したとすれば、取材倫理上極めて重大な問題と考えます。
- 御社はこの点について、どのような調査を行いどのような見解を持っていますか。
- (13) 御社記者の取材が始まって20分ほど経過した段階で、松尾元放送総局長が、御社記者がメモを取り始めたことに気付いて「メモは取らないでください」と求め、それ以降、御社記者は一切メモをとらなかつたということです。

それでは、2時間に及んだという取材での証言内容をどのような方法で正確に記録できたのですか。

- (1 松尾元放送総局長は、19日に自ら記者会見して
- 4) 「朝日新聞の記事は私の証言を歪曲し、全く逆の内容になっている」と批判しましたが、その前日に御社記者に電話をかけています。その中で、松尾元放送総局長は、「取材に答えた内容と記事の内容が違っている。記事にあるNHK幹部とは私のことか」と聞き、御社記者が認めると、「私は記事のような証言はしていない。取材の内容を確認したいので、録音テープがあれば、私にも聞く権利があるので聞かせて欲しい」と要求しました。これに対し御社記者は、録音テープがあるかどうかについて明言しませんでした。

取材相手から録音テープの存在の有無を聞かれた際に、御社記者は、なぜそれに答えなかったのですか。

- (1 松尾元放送総局長への取材を録音したテープは
- 5) あるのですか。

- (1 去年8月に明らかになった、御社記者が起こした
- 6) 「無断録音テープ流出問題」についての御社見解によれば、「取材内容の録音は相手の了解を得るのが原則であり、取材相手との信頼関係を損なうことがあってはならない」としています。

御社記者は、松尾元放送総局長に取材した際に録音する許可を得ていませんでしたので、仮に録音テープがあるのであれば、御社見解に照らした場合、取材倫理に反する行為にあたると思いますがいかがでしょうか。

- (1 また、録音テープの有無に関わらず、記者会見前

7) 日に松尾元放送総局長が電話で質問した際に、録音テープの存在の有無をはっきり答えなかった御社記者の行為は、「取材相手との信頼関係を損なうことがあってはならない」としている御社の取材倫理に、やはり反するものと考えますがいかがですか。

(1 さらに記者会見前日の電話で、松尾元放送総局長
8) が、御社記者に対して「私の証言と記事の内容が違っている」と抗議をした際に、御社記者は「NHKにはもう話してしまいましたか」「どこかでひそかに会えませんか」「証言の内容について腹を割って調整しませんか」「摺り合わせができるでしょうから」などと繰り返しました。

御社によると御社の記事は、「2人の記者が松尾元放送総局長に長時間会って取材した結果などを正確に報じた、根拠あるもの」だということです。それではなぜ記事を掲載した後になって、証言の内容を「調整」したり「摺り合わせ」たりする必要があったのでしょうか。

明確で納得のゆく回答を求めます。

以上18項目の質問について、御社が報道機関としての矜持を保ち、言い訳や論点のすり替えをせず、きちんとした内部調査をしてその結果を記者会見で公表するとともに、記事を訂正しNHKなど関係者に謝罪することを改めて求めます。

以上

[戻る](#)

INTERNET ARCHIVE
Wayback Machine

http://www.nhk.or.jp/pr/keiei/news/008.html Go

25 captures
29 1 05 - 8 10 08

3 10 11 Close
8
2007 2008 2009 Help

朝日新聞社からの1月21日付通告書に対し NHKから次のとおり回答いたしました。

平成17年2月1日

9月30日

[朝日新聞記者会見に
ついてのコメント](#)

東京都港区虎ノ門五丁目3番20号

仙石山アネックス308

通告人株式会社朝日新聞社代理人

8月25日

[朝日新聞の社内資料
流出
問題について](#)

弁護士 秋山 幹 男 殿

東京都渋谷区神南二丁目2番1号

日本放送協会総務局法務部内

被通告人日本放送協会代理人

弁護士 梅田 康 宏

7月25日

[朝日新聞記事につい
での
総局長会見](#)

回 答 書

前略 当職は、貴職からの平成17年1月21日付通告書に対し、被通告人日本放送協会(以下、「NHK」といいます)を代理し、次のとおり回答いたします。

4月20日

[朝日新聞社への
催告書](#)

貴職は、通告書の中で、「記事に記載された松尾氏の発言は取材に対する同氏の発言と正反対のあるいは発言とはまったく異なる虚偽のものであるなどと述べさせました」と述べておられますが、この点は事実と異なります。松尾氏自身が記者会見の中で述べているとおり、松尾氏の記者会見は、真実を明らかにする場として、NHKの放送総局長定例記者会見終了後、その場を使用させて欲しいという松尾氏からの要望に基づいて実現したものであって、同記者会見における松尾氏の発言はいずれも松尾氏自身の意思によって、松尾氏自身の記憶に基づいて述べられたものであり、NHKが「述べさせた」ものではありません。

2月1日

[朝日新聞社への
回答書](#)

1月21日

[朝日新聞社への
公開質問状](#)

1月19日

[関根放送総局長の
記者会見要旨](#)

また、かかる松尾氏の記者会見における発言を取り上

1月18日

朝日新聞社への抗議文

1月14日

朝日新聞社への抗議文

1月13日

関根放送総局長の見解

げたNHKの報道は、松尾氏の発言内容を正確に伝えたものです。そして、政治家によってNHKの番組が改変されたのか否かという一連の問題が国民の重大な関心事であることを考え合わせれば、そこに関与したとの疑惑を受けている当事者の一人である松尾氏の記者会見での発言を取り上げた報道は、公共放送としての役割を果たす正当なものであり、放送法の理念にも合致しているものと考えます。

なお、貴職は、松尾氏に対して再度同記者会見での発言内容について確認するよう求めておられますので、NHKにおいて再度松尾氏に確認いたしました。これについて松尾氏は、「本田記者および高田記者からは取材の中で、『圧力があつたらう』と繰り返し問いただされましたが、私はその度に『圧力はなかった』『圧力は関係ない』などと、政治家等の圧力による番組内容の変更が無かったことを繰り返し答えました。記者会見で述べた内容には誤りはありません」との回答を得ております。

本件は、通告人朝日新聞社(以下、「貴社」といいます)が、1月12日付の紙面において、NHKが放送前に中川氏と安倍氏による政治的圧力によって番組を改変したとする事実と異なる内容の記事を掲載したことに端を発しております。これについてNHKは再三にわたって「政治的圧力による番組改変」はなかったことを繰り返し説明してまいりました。1月19日には記者会見を開き、「改変はあり得ない」ことを説明し、さらに松尾氏もその場を借りて政治的圧力による番組改変がなかったことを明確に証言しております。これに前後して貴社は12日付けの記事を補足する形で18日と20日に続報を掲載されましたが、12日付けの記事の具体的な根拠や裏付けは示されておられません。

こうした状況を受けてNHKは1月21日に貴社に対して公開質問状を送り、記事の真偽と取材方法への疑問を再度問いただきました。なお、貴社は、この公開質問

状に関して、「取材の経過を明かすよう迫るなど、同じジャーナリズムに携わるものとして信じられない思いです」とその紙面にて述べておられますが、公開質問状を確認いただければお分かりになるとおり、NHKは取材の経過を明かすようには求めてはおりません。公開質問状は、貴社自身が、貴社の記事がきちんとした取材に基づくものであると認識しているのかを再度問うものです。

この公開質問状に対しては、本日に至るも、貴社からは何ら正式な回答をいただいております。引き続き誠意ある回答を求めます。

なお、NHKと致しましては、これまでも記者会見を開くなどして視聴者の方々に対して本件に関する説明をしておりますが、これまで以上に、自ら積極的に本件に関する事実関係を明らかにしていこうと考えるに至りました。その方法も含めて早急に検討し、視聴者の皆様への説明責任を果たし、貴社の報道に端を発するNHKへの一連の疑念を払拭するつもりです。

以上をもって、貴職からの平成17年1月21日付通告書に対する回答と致します。

草々

[戻る](#)

INTERNET ARCHIVE
Wayback Machine

http://www3.nhk.or.jp/pr/keiei/news/050725.html Go

21 captures
25 11 05 - 7 6 09

1 3 6 Close
15
2007 2008 2009 Help

平成17年7月25日

朝日新聞記事についての総局長会見(要旨)

9月30日

[朝日新聞記者会見に
ついてのコメント](#)

【原田総局長】

NHKは今年1月の朝日新聞の報道以降、記者会見などで事実関係とそれに基づくNHKの考えを説明し、マスコミの質問にも誠実に答えてきました。何よりも視聴者の方々の誤解を払拭しなければならないと考えたからで、この番組については編集過程の詳細にまで敢えて踏み込んで明らかにすることにし、その結果を裁判所に提出するとともに、NHKのホームページにも掲載しました。理解していただきたいのは「NHKが政治からの圧力によって番組を改変したこと」はこれまでもこれからもありません、ということです。

8月25日

[朝日新聞の社内資料
流出
問題について](#)

しかし、朝日新聞はこの点について、これまでより強い調子で「政治家の圧力による番組改変」という構図が明確になったという記事をけさ掲載しました。このままでは視聴者に再び誤解が広がってしまうおそれがあるため、記者会見を設定して、視聴者に対して説明することになりました。

7月25日

[朝日新聞記事につい
での
総局長会見](#)

朝日新聞社は、1月12日の記事で、▼中川議員が放送前日にNHK幹部に会った▼中川・安倍両議員がNHK幹部を呼んだと指摘していましたが、けさの記事では、「NHKが政治家の圧力で番組を改変した」という主張の前提となるこれらの事実関係について、半年にわたる再取材によっても真相を明らかにすることができなかつたと自ら認めています。その上、けさの記事には、政治家からどのような圧力があり、それによって番組がどう改変されたのかという、記事の根幹部分を補強する新たな

4月20日

[朝日新聞社への
催告書](#)

2月1日

[朝日新聞社への
回答書](#)

1月21日

[朝日新聞社への
公開質問状](#)

1月19日

[関根放送総局長の
記者会見要旨](#)

1月18日

[朝日新聞社への抗議文](#)

1月14日

[朝日新聞社への抗議文](#)

1月13日

[関根放送総局長の見解](#)

事実の提示もありませんでした。

それにもかかわらず、「政治家の圧力による番組改変という構図がより明確になった」と主張しているのは、まったく事実の裏付けのないもので、到底理解できるものではありません。さらに、真相に迫ることができなかつたとしながら、「現時点では記事を訂正する必要はない」としているのも理解できません。

この記事は検証記事であるにもかかわらず、全体としては「政治家の圧力で番組が改変された」という当初の思いこみから抜け出ていない内容であり、極めて遺憾です。NHKは、これまで通り裁判の節目で説明したり、朝日新聞の動きについても反論すべきは反論して、視聴者の方々への説明責任を果たしていきたいと考えています。

以下、記事の中の「取材の総括」と題した東京社会部長の文章について、NHKの考えを述べます。

はじめに、社会部長は、今年1月の記事のきっかけがNHK担当デスクの内部告発であり、「政治家の圧力で番組が改変された」というものだったことを認めています。しかし、この担当デスクの証言が伝聞に過ぎなかつたことは、その後担当デスク本人が開いた記者会見での発言から明らかです。朝日新聞の記事が、そもそもの出発点からあやふやだったということになります。

次に、記事には「担当デスクの告発内容を政治家や番組関係者らに確認し、一致する範囲で記事にした。特に支えとなったのは、直接の当事者である中川・安倍・松尾の取材結果だった。その内容が大筋で一致したので『信じるに足る』と判断した」となっています。この点について朝日新聞は、「信じるに足る」と判断した3人全員から記事の内容を否定されたため、1月の記事の根拠を失うことになりました。その後、朝日新聞が今日にいたるまで繰り返してきたのは、「記事は正当な取材に基づいたものであり真実相当性がある」ということだけで、「記事

の内容が真実である」という主張は一切展開してきませんでした。

社会部長は、当時の政治家の動きと番組作りの過程を調べ直すことにした、と述べていますが、記事を仔細に読んでみても、朝日新聞の主張を裏付ける具体的な事実は見当たりません。この6か月あまりの取材をもってしても具体的な事実が出てこなかったのに、何をもって「圧力で改変」がより明確になったと書いているのか理解に苦しみます。

【石村副総局長】

社会部長は、「国会担当局長が番組の修正を細部にわたって指揮していた」としていますが、編集判断をしたのは当時の松尾放送総局長、伊東番組制作局長、そして吉岡教養番組部長であり、その模様は裁判所に提出したNHKの準備書面と3人の陳述書で丁寧に説明しています。また、野島担当局長が番組の試写に同席した理由についても同様に詳しく述べています。

また、「修正内容は番組を問題視していた政治家たちの主張に重なるものでした」とありますが、番組の制作を委託したプロダクションに任せておいては、NHKとして公平公正な番組が放送できないと判断して、すでに1月24日から、NHKとしての軌道修正の作業に入っていました。そして最後までその方向性にしがって編集作業が続けられたものであること、さらに、それぞれの編集にはNHKとしての独自の判断があり根拠があったことについても準備書面や陳述書で明らかにしています。もちろんNHKは政治家からの具体的な指示など受けていませんし、具体的な番組の内容を政治家に説明していません。

次に、「松尾放送総局長が政治家の発言を『圧力』と受け止め、それから番組を守ろうとした」としていますが、松尾放送総局長が「政治圧力によって番組が改変された」ことを認めている部分は、これまでの朝日の記事や

けさの記事の中にも、一切見当たりません。社会部長本人も書いているように、朝日の記者の取材に対する松尾氏の発言の趣旨は「番組を守ろうとした」ことを述べたのであって、政治家・視聴者それに右翼など外からの様々な意見は意見として聞くけれども、それによって番組制作が影響を受けることはなく、この番組についても同様であったことを強調したものだ」と、松尾氏は話しています。しかし、朝日新聞は、この松尾氏の答えの趣旨とは逆に、松尾氏のインタビュー内容を根拠にして「圧力による番組改変」があったという答えを導き出して出しています。これはおかしいと思います。

以上説明してきたように、社会部長の文章を検討すると「政治家の圧力による番組改変」という構図がより明確になったという結論がどうして出てくるのか、全く理解できません。

最後に、社会部長は、問うたのは特定の政治家の影響で番組を改変することの是非であり、ひいては「公共放送と政治との距離」でした、と述べていますが、NHKとしては、これまでもこれからも、朝日新聞が心配しているような事態を許すことは絶対にありませんので、これは明確に申し上げておきたいと思います。

○ 以下は、主な質疑応答です。(要旨)

Q. NHKは、朝日新聞に18項目の公開質問状を出していますが、記事のうち、NHK側として、「これは満足の行く回答である」と思えるものはありましたか？

A. (総局長)全体として18項目にきちっと答えていただいているというふうには思えません。

(副総局長)18項目の質問の1番目で、「中川氏とNHK幹部が放送前日に面会したのは事実ですか」と訊きましたが、この点についてだけでも、ほとんど回答になっておらず、納得した回答が得られたとは思っ

ていません。

Q. 記事を受けて、何か新たな対応を考えていますか？

A. (総局長)視聴者の皆さんに誤解が広がらないように、NHKとしてきっちり説明責任を果たして行こうと思います。

Q. 松尾元総局長の一問一答が載っていますが、これについて松尾氏はどう言っていますか。またNHKはどう考えますか？

A. (総局長)松尾元総局長は、「全体としてどういう状況、どういうやり取りの中でこういう答えが引き出されたのか」と、相当違和感を持ったようでした。特に質問のところはかなり違っていたようでした。

(副総局長)こういう一問一答があったというなら、具体的なシチュエーションが分かりませんので、18項目の質問の中でも指摘していますが、録音テープがあるならば公開していただきたいと思います。

Q. 26日の試写で、関係者が「この程度なら大丈夫」と感じたのに、29日になって番組内容が急に変わったのはなぜですか？

A. (総局長)26日に試写したものは、番組の全体がまだ見えにくいバージョンだったとご理解ください。番組は、仕上げに近くなればなるほど、コメントの入れ方、それから構成が本当にこれでいいのか、さまざまなアラが見えてきます。29日になっても、いろいろな検討点が出てきたということだと思います。26日で完璧だったのが、29日になっていきなり崩れたということではありません。ある程度、番組の形が見えて、それぞれ自分の立場で検討点を出し合いながら番組を仕上げたといつたところまでご理解いただければと思います。

Q. 記事には、あるスタッフの台本に政治家と思われる名前が書かれているとありますが、NHKの調査では把握されていますか？

A. (総局長)一部の関係者の台本に名前が書かれていることは承知しています。ただ、これがいつ、どういう状況で書かれたものか、それにどういう意味があるのか、誰も記憶がないということです。このことが特段、重要なことだとは捉えていません。

Q. 29日の試写で、番組をこういうふうに変えましょうということを話し合ったあと、修正内容は野島担当局長が永田CPに伝えましたが、なぜ野島氏が伝えたのですか？

A. (総局長)この場の推測で申し訳ありませんが、総局長以下の人間は恐らく試写室の中で、まだ協議していたとか、そういう状況だったのかと思います。野島氏が記事に書かれたように指揮を取るということは考えられないし、当時の事実関係を調べてもそういうことはありません。野島氏は、こういうところが変わったよということを、指示したというより、伝えたものです。その後で、担当のCPは、吉岡部長と話をし、あらためて台本をもとに修正点をきっちり確認し、その後の作業に入ったということを申し上げておきたいと思います。

—以 上—

[戻る](#)

INTERNET ARCHIVE
Wayback Machine

http://www3.nhk.or.jp/pr/keiei/news/050825.html Go

21 captures
18 11 05 - 7 6 09

1 3 6 Close
15
2007 2008 2009 Help

平成17年8月25日

朝日新聞の社内資料流出問題について

9月30日

[朝日新聞記者会見に
ついてのコメント](#)

本日、朝日新聞社は、NHKの番組についての朝日新聞の記事をめぐって自民党の国会議員やNHKの松尾元放送総局長への“取材記録”が月刊誌に掲載されたことについて、「社内調査の結果、記者が取材した内容を整理した資料が社外に流出したと考えざるを得ない。信義に反するもので痛切に責任を感じている」と謝罪するとともに、関係者を近く処分することを明らかにしました。

8月25日

[朝日新聞の社内資料
流出
問題について](#)

これに関連して、NHKと松尾元放送総局長は、下記のとおりコメントと補足説明を出しました。

7月25日

[朝日新聞記事につい
での
総局長会見](#)

NHKのコメント

4月20日

[朝日新聞社への
催告書](#)

漏えいした取材記録について、松尾元放送総局長は全体像が明らかにされていないと話しています。また、これまでの朝日新聞の記事と異なる部分が多く、さらに「同席した自民党議員から聞いた」と記者が嘘をついて取材した疑いがあることもわかりました。

2月1日

[朝日新聞社への
回答書](#)

漏えいした取材記録だけみても「政治的圧力を受けてNHKが番組を改変した」とする朝日新聞の記事を裏付けるような証言は見あたりません。

1月21日

[朝日新聞社への
公開質問状](#)

松尾元総局長への取材はかなり長時間に及んでおり、朝日新聞社に対して、改めて取材記録の全てを明らかにするように強く求めます。

1月19日

[関根放送総局長の
記者会見要旨](#)

松尾元放送総局長のコメント

1月18日

[朝日新聞社への抗議文](#)

取材で答えた内容と記事の趣旨が大きく違っていたため、朝日新聞に対しては、今年1月以来、一貫して取材記録を全て明らかにするように求めてきましたが、要望は今も聞き入れられていません。

1月14日

[朝日新聞社への抗議文](#)

それなのに今回、取材を受けた本人にさえ明らかにされなかったものが、朝日新聞の内部から他のメディアに漏えいされたことを聞き、強い憤りを感じています。

1月13日

[関根放送総局長の見解](#)

<補足説明>

松尾元総局長は、今年1月19日に開かれた記者会見の前日に、朝日新聞の記者に電話をかけて、「取材で答えた内容と朝日の記事の趣旨が大きく違っている。取材内容を確認したいのでテープがあれば聞かせて欲しい」と要望しました。しかし、記者は要望に応えず、その後朝日新聞社は、テープの存在の有無さえ明らかにしようとする姿勢を続けてきました。

その取材資料が、今回、他のメディアに漏えいしたことについて、朝日新聞は松尾元総局長に対して、当事者にきちんと説明することが責務だと考えているので、漏えいの事実関係の説明と謝罪をしたいと申し入れてきました。

松尾元総局長は、「その前にまず、朝日新聞が持っている取材記録なり、取材資料なりを全て示して欲しい。取材を受けた当事者として、どのような取材内容であったか、どのように取材記録がまとめられたのかを確認したい」と改めて要望しましたが受け入れられませんでした。

今回漏えいした取材記録を検討すると

- ▼ 松尾元総局長によれば、記事は受けた取材の一部分でしかなく、全体像が明らかになっていないこと。
- ▼ 朝日新聞がこれまでの記事で明らかにしていなかったやりとりや、記事の表現と食い違っている部分が多く見られること。
- ▼ さらに、4年前のことで記憶があいまいな松尾元総局長に対して、「同席した自民党議員からも聞いた」などと記者が繰り返

返し嘘について取材していた疑いがあることなど、さまざまな問題点があることがわかります。

今回漏えいした部分的な取材記録だけでも、「中川、安倍両氏が放送前日にNHK幹部を呼んで内容の偏りを指摘し、NHKが番組を改変した」とする朝日新聞の記事を裏付けるような松尾元総局長の証言は見あたらず、逆に、国会議員も特定の団体も関係なく、NHKとして公正中立な番組を放送するために努力した経過を、松尾元総局長が朝日新聞の記者に対し説明しようとしていたことがわかります。

「取材で答えた内容と記事の趣旨が大きく食い違っている」という松尾元総局長の主張が間違っていないことを視聴者の方々に正しく理解していただくためにも、改めて朝日新聞社に対し取材テープや取材記録の全てを明らかにするよう強く求めます。

以上

[戻る](#)